



SOCIAL CHANGE AGENCY

特別講演・シンポジウム

『ソーシャルワークは誰のものか?-ソーシャルアクションを補助線として実践者、研究者が思考する-』

特別講演・シンポジウム『ソーシャルワークは誰のものか?-ソーシャルアクションを補助線として実践者、研究者が思考する-』を開催いたします。

本特別公演・シンポジウムは、2017年6月より開始しました1年間の研修プログラム「[Social Change Agent養成プログラム](#)」の最終プログラムとなります。

当日は、3人の演者の方から「ソーシャルアクション」を補助線にし、各講演者の「眼」が捉えている社会とソーシャルワークについての知見、問いを共有いただきます。

数多の問いを抱えながら実践・教育・研究現場に立っている数多くのソーシャルワーカーのみなさまのご参加をお待ちしております。

【開催概要】

日時：2018年3月11日（日）13:00～17:00（開場12:30～）

場所：日本福祉教育専門学校（高田校舎）

定員：130名

参加費：1500円

[参加申し込みはこちら](#)

もしくは、以下のアドレスにご連絡ください。

お問い合わせ：info@social-change-agency.com

【演題/登壇者】

『ミクロ-メゾ-マクロを通貫する理論構築-マクロソーシャルワーク研究会設立の背景と目的-』
石川 久展 氏/関西学院大学 人間福祉学部 教授

『日本におけるソーシャルアクションの実践モデルが伝えること』
高良 麻子 氏/東京学芸大学 教育学部 教授

『ソーシャルアクション実践最前線-日本のソーシャルワーカーへの問題提起と提案-』
藤田 孝典 氏/NPO法人 ほっとプラス 代表理事

【コーディネーター】

『本プログラム報告と事業を通してみえてきたもの-社会インフラの保守と創造を架橋するソーシャルワーク-』

横山 北斗/NPO法人 Social Change Agency

【講演者プロフィール】



石川 久展 氏 (いしかわ ひさのり)

関西学院大学大学院前期課程修了、日本社会事業大学大学院後期博士課程修了(社会福祉学博士)1990年ルーテル学院大学(旧日本ルーテル神学大学)専任講師、2002年同大学教授、2008年関西学院大学人間福祉学部教授。専門：高齢者福祉、専門職ネットワーク、専門職支援、社会関係、社会調査

著書：『「地域生活の質」に基づく高齢者ケアの推進』(共著)、有斐閣、2009年、『ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ』(共著)ミネルヴァ書房、2015年、『相談援助演習』(共著)、中法規出版、2015年など



高良 麻子氏(こうら あさこ)

東京学芸大学教育学部社会科学講座教授 横浜国立大学教育学部教育学科卒業後、アパレル勤務。コロンビア大学大学院スクールオブソーシャルワーク修了後、在宅介護支援センター勤務。東京家政学院大学人文学部人間福祉学科助手を経て、東京学芸大学教育学部教授。東洋大学大学院福祉社会デザイン研究科社会福祉学専攻修了、博士(ソーシャルワーク)。社会福祉士 社会的に排除されている人びとへの支援のあり方をテーマに、独立型社会福祉士や地域包括支援センターの社会福祉士等の実践分析を中心とした実証的研究を十数年続けている。『独立型社会福祉士―排除された人びとへの支援を目指して』や『日本におけるソーシャルアクションの実践モデル―「制度からの排除」への対処』等、論文・著書多数。



藤田孝典 氏 (ふじたたかのり)

NPO法人ほっとプラス代表理事

1982年生まれ。社会福祉士。NPO法人ほっとプラス代表理事、聖学院大学人間福祉学部客員准教授、反貧困ネットワーク埼玉代表。厚生労働省社会保障審議会特別部会委員。ソーシャルワーカーとして現場で生活困窮者支援をしながら、生活保護や貧困問題への対策を積極的に提言している。著書に「下流老人―億総老後崩壊の衝撃」「貧困世代 社会の監獄に閉じ込められた若者たち」など。現場で出会った人たちの声をメディアなどを活用することで、社会に届け、様々なセクターの人々を巻き込みながら制度や政策に影響を与えている。現代のソーシャルワーク業界を牽引するリーディングプレイヤー。